シリーズ
原発・いのち・みらい
その50

核戦争に反対する医師の会主催

福島原発被災地を見学して

理事　大浜　和憲（白山市・小児外科）

2017年7月9日（日）快晴。午前8時にJR福島駅前の「ホテル辰巳屋」に集合した。核戦争に反対する医師の会が企画した「福島避難指示解除区域視察会」に、私を含め各地の先生方15人と事務局2人が参加。石川県からは原和人先生も参加されていた。

マイクロバスに乗って、一路相馬市のNPO法人「野馬土（のまど）」に向かった。車中、みんなで自己紹介をして親睦をはかった。隣になった原和人先生は、6月8日に福島原発を視察されたばかりで、いろいろと教えていただいた。「野馬土」からガイド役の天野和己さんが同乗され、相馬ICから常磐道に乗った。常磐道から見える風景は荒れ地ばかりであった。浪江に近づくにつれて、人家は草木に埋もれていて人が住んでいる気配はなかった。浪江ICで降りて、国道114号線から県道34号線に入り、10時23分「希望の牧場」に到着したが、途中に見かけた家々の入口は柵で遮られており、立ち入り禁止となっていた。またいたるところにフレコンバッグが、高いところで5段まで積み上げられており、いつ破損するかも分からず、とても人が安心して住めるようなところではないと感じた。

一面に敷き詰められたフレコンバッグ

浪江の「今」

「希望の牧場」では、今やシンボルになっている「張りぼての牛」が出迎えてくれた。入口に設けられたコンテナハウスには震災で犠牲になった牛の屍などの写真が展示されており、この建物内に立ち入り禁止区域の境界線が赤い線で引かれていた。広大な牧場のはるかかなたにのんびりと草を啄んでいる牛の群れが心を和ませてくれた。

10時45分「希望の牧場」を出発、11時ちょうどにJR常磐線の浪江駅に到着した。浪江駅は現在仙台方面からの終点になっており、浪江駅と竜田駅との間は今なお不通で東京方面へはつながっていない。浪江駅のある浪江町は今年の3月末に避難指示が解除されたばかりだが、駅舎の中に時刻表は見当たらず、人っ子一人見かけず、本当に電車が来るのかしらと思った。周辺には人影もなく、信号が意味もなく点滅していた。駅前には「高原の駅よさようなら」の譜碑がぽつねんと建っていた。この歌は浪江町出身の佐々木俊一氏が作曲したそうだが、この惨状を見て彼は草葉の陰で泣いているのではないだろうか。約15分滞在して、11時20分浪江町役場に到着した。中庭ではフラダンス教室が開かれ、弘前大学からの支援も来ており、ようやく人のにぎわいに触れることができて安堵した。

「希望の牧場」で出迎えてくれた「張りぼての牛」

廃墟と化したモダンな請戸小学校校舎

失われた大地

その後、請戸（うけど）漁港へ向かった。請戸漁港は現在復旧工事のさなかであるが、日曜日ということもあり、重機ばかりが目についた。ここから福島第一原発の煙突が南方に望見できた。この周辺は津波の被害で300軒あった建造物のほとんどが流されて、強固な建造物10軒だけが残されたそうだ。請戸小学校もその一つだ。この小学校の生徒と職員は全員高台に避難して助かったが、原発マネーで建てられたモダンな校舎は、2階まで押し寄せた津波にもびくともしなかったそうだ。校舎に残っていても3階に避難すれば助かったはずだが、この地域は立ち入り禁止区域に指定されたため、見殺しにされたかもしれないとのことであった。

昼すぎに南相馬市小高区の浮舟文化会館で昼食をとったが、ご当地グルメ「なみえ焼きそば」は逸品であった。昼食後、道の駅「南相馬」でお土産を買って、「野馬土」でガイドの天野さんと別れて、福島へ向かった。

被災地は今、放射能汚染された山林は放置され、除染された土地には雑草が生え、フレコンバッグは積み重ねられ、人影もない。農作業を営む気配も感じられなかった。私には「失われた大地」としか思えなかった。夢の原子力エネルギーは幻であったのか。

開催予告

医科 新点数・介護報酬検討会

金沢会場
とき　2018年3月25日（日）午前10時～午後0時半
ところ　野々市市文化会館フォルテ 大ホール

七尾会場
とき　2018年3月25日（日）午後3時～午後5時半
ところ　七尾美術館 アートホール

歯科 新点数検討会
とき　2018年3月21日（水・祝）午前9時半～正午
ところ　ホテル金沢 2階・ダイヤモンド

※上記は現時点での予定ですので、時間などが変更になる場合があります。本紙1月号に確定した案内を掲載・チラシを同封いたしますので、そちらも必ずご確認ください。
※参加申し込みは本紙1月号より同封する案内チラシにてお願いいたします。

石川県保険医協会
電話 076(222)5373　FAX 076(231)5156

第11回理事会点描

（11月7日・11人出席）

大平会長がお休みのため、報告事項が中心となった。総務部からは、沖縄辺野古視察ツアーの報告がされ、百聞は一見に如かずとはこのことだと思われた。経営・共済部からは、保険医年金の申込み件数は多かったが小口が中心であり、今後の取り組み課題が指摘された。歯科部は相変わらず企画が盛りだくさんで感心する。学術・保険部は、「ワクチンと免疫」第4回の谷内江先生への質問疑問を募ることを確認。医師とコメディカルの講演会「看護・介護職員のための腰痛対策」の案内先を、小規模施設へ広げることが提案された。そして、北信越ブロック在宅医療点数改善のための厚労省交渉では改定前の超多忙時期に関わらず、真摯に、しかし厳しく対応された医療系技官とのやり取りがリアルに伝えられた。そして機関紙・文化部からは、ドクターズ・ファミリー・コンサート盛会の模様が！　【小川　記】